

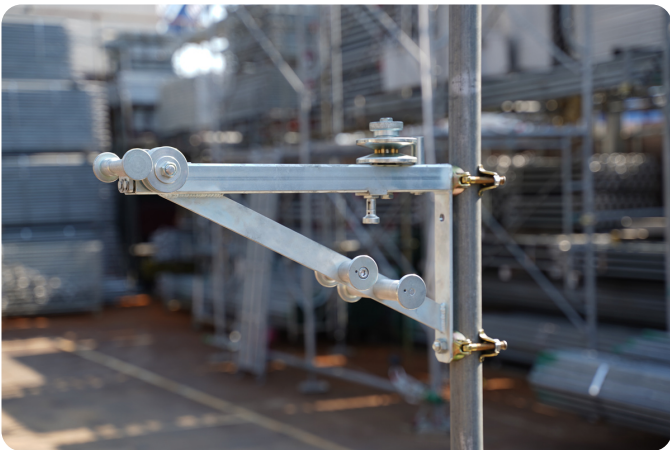


Friction Bracket

足場荷下ろし装置

株式会社 奥野組

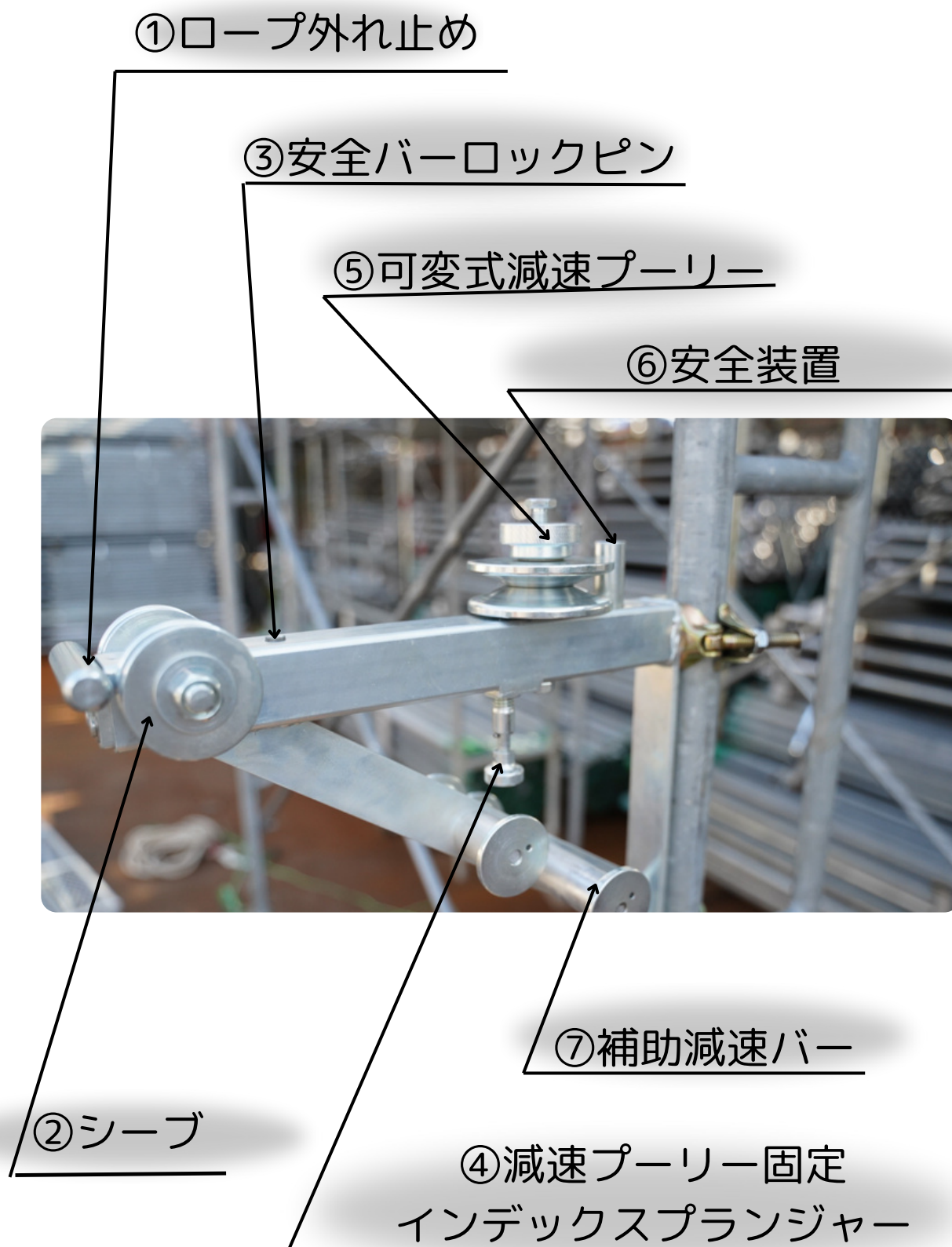
Friction Bracket



本製品は、仮設足場を構成する各種部材を安全かつ効率的に地上へ下ろすために、奥野組が自社開発した装置です。

長年課題とされてきた荷下ろし作業時の作業者への負担軽減と、安全性の確保を最優先に設計されており、現場の生産性向上と安心・安全な作業環境の実現に貢献します。

Friction Bracket



Friction Bracket

のここが熱い

可変式減速プーリーが熱い🔥



◎ フリクションブラケットの“心臓部”

可変式プーリーは、フリクションブラケットの中核をなす重要な部品です。ロープと金属部材との摩擦を利用することで、荷下ろし時の荷重を効果的に軽減する役割を担っています。

◎ ロープ摩耗を抑える接触面の工夫

ロープが接触する部分は、摩耗を最小限に抑えるように加工されています。

◎ 最適な摩擦力に調整可能！

減速プーリーは可変式となっており、使用する材料や天候などの条件に応じて、最適な摩擦力を設定することが可能です。

Friction Bracket

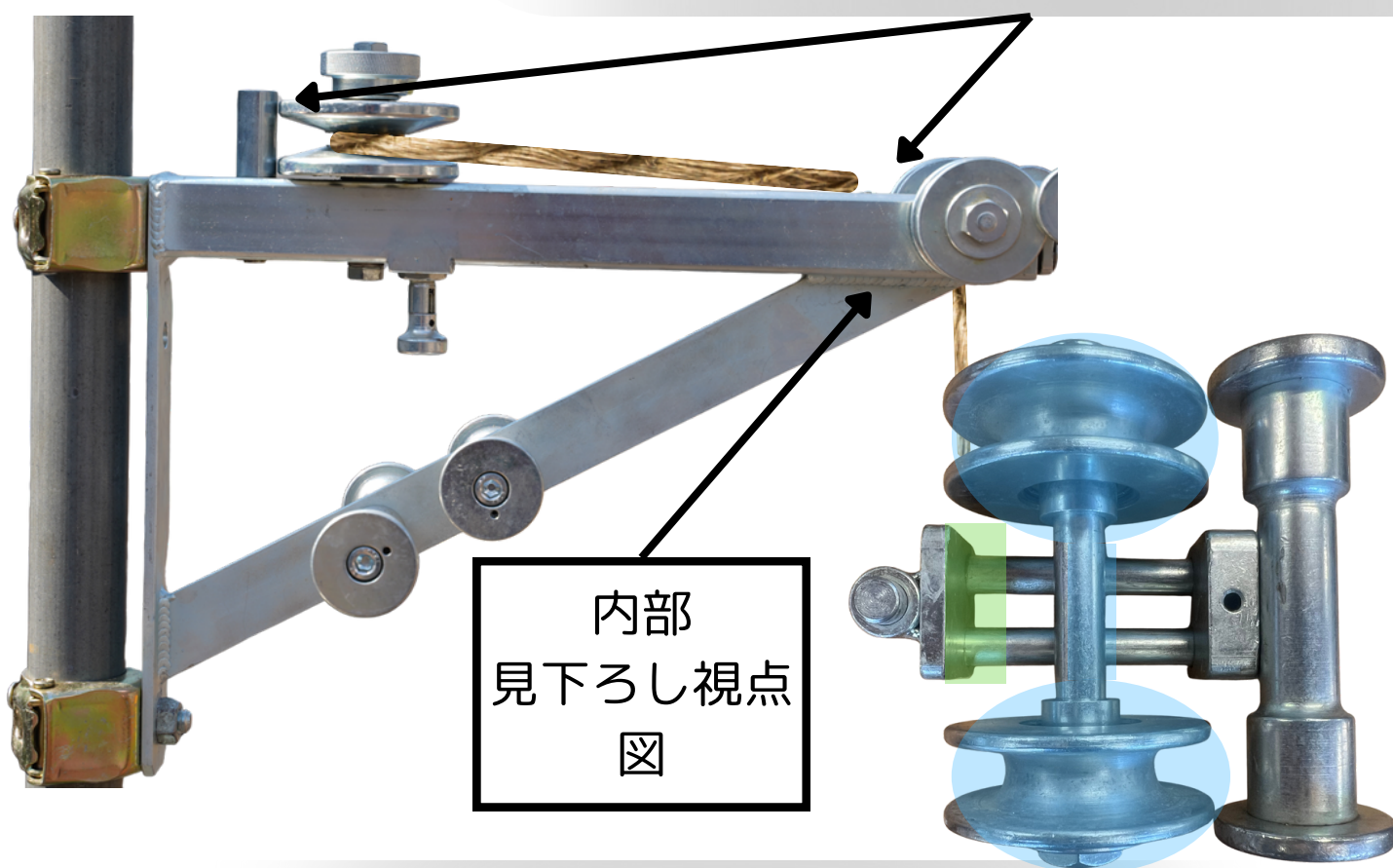
のここが熱い

三重の安全装置が熱い



◎ロープ外れ止め装置

- ・先端部・後方部「ロープ外れ止め」を設置し、ロープの抜けを防止。



◎隠れたポイント

- ・バーが外れないようにシーブの軸と外れ止めバーのプレートが噛み合う構造となっている。

Friction Bracket

メリット

Friction Bracketを使用するメリット

01

コスト削減

従来の荷下ろし器では、作業中にロープや革手袋が激しく摩耗し、一日作業を行うだけでも著しく劣化してしまう。摩耗品の頻繁な交換が必要となり、コストが高む。



当製品のロープ接着面には摩擦を抑える構造が施されており、ロープの劣化を軽減することで、事故の防止につながります。

02

安全性向上

従来の施工方法では、ブラケットにロープを掛けて作業を行っていたため、ロープが外れる恐れがあり、落下防止対策が不十分で、安全面への配慮が行き届いているとはいえませんでした。



ロープの落下対策として三重の安全装置を採用しており、安全性のさらなる向上につながっています。

03

作業員の負担軽減

従来の方法では、作業員が自身の握力だけを頼りに荷下ろしを行っていたため、身体的な負担が大きく、事故への不安も常に伴っていました。



当社製品では、減速プーリーを採用することで、摩擦を利用したスムーズな減速が可能となっています。人の握力だけに頼らない製品となっています。

技術使用

①最大荷重

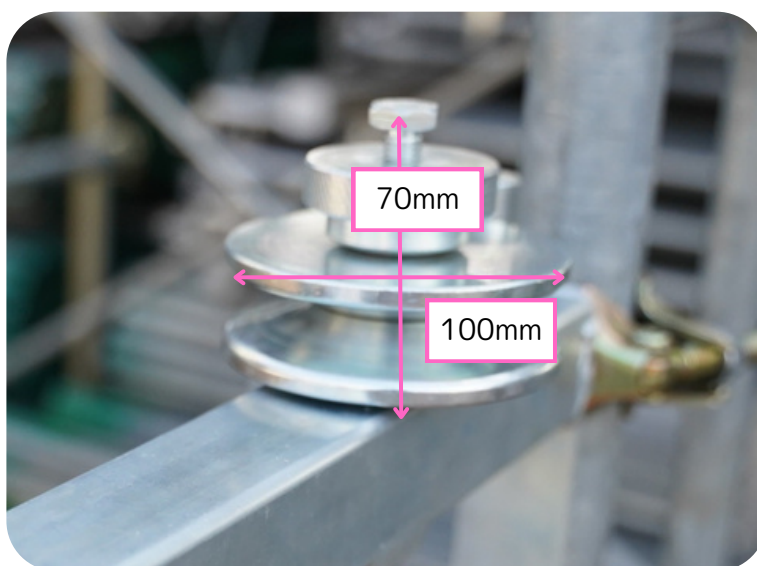
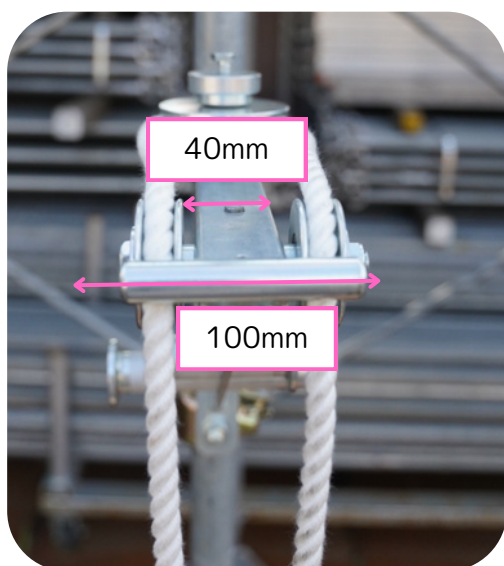
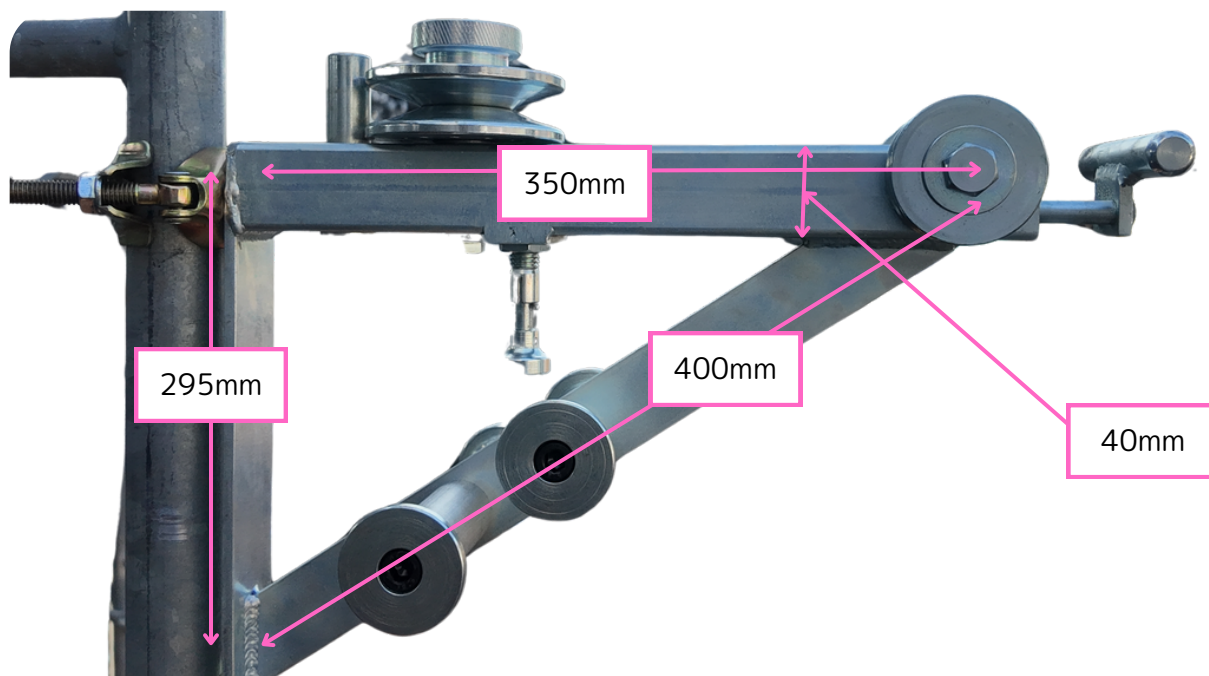
100kg

②ロープ材質 高耐久ポリエステル クレモナロープ12mm

300



Friction Bracket



重量

6.5Kg

材料

鋼材

単価

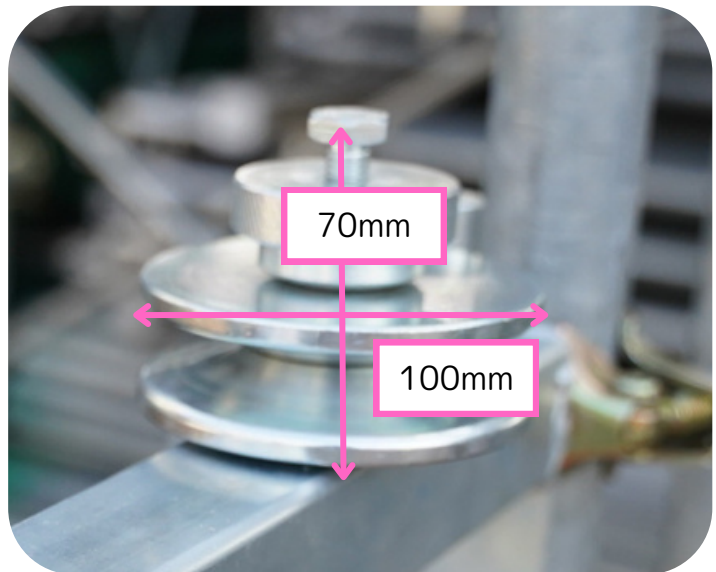
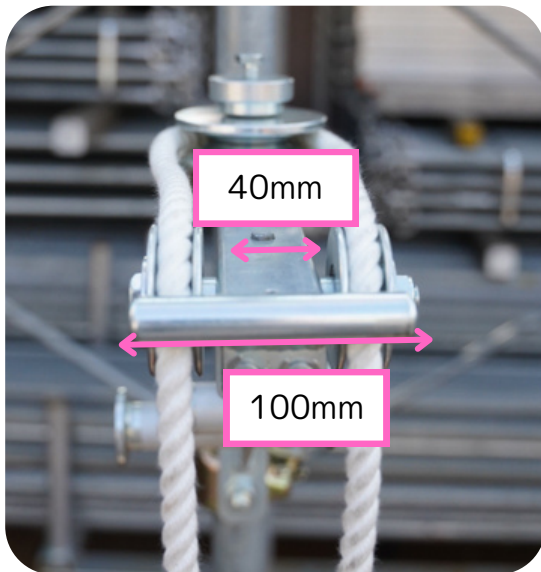
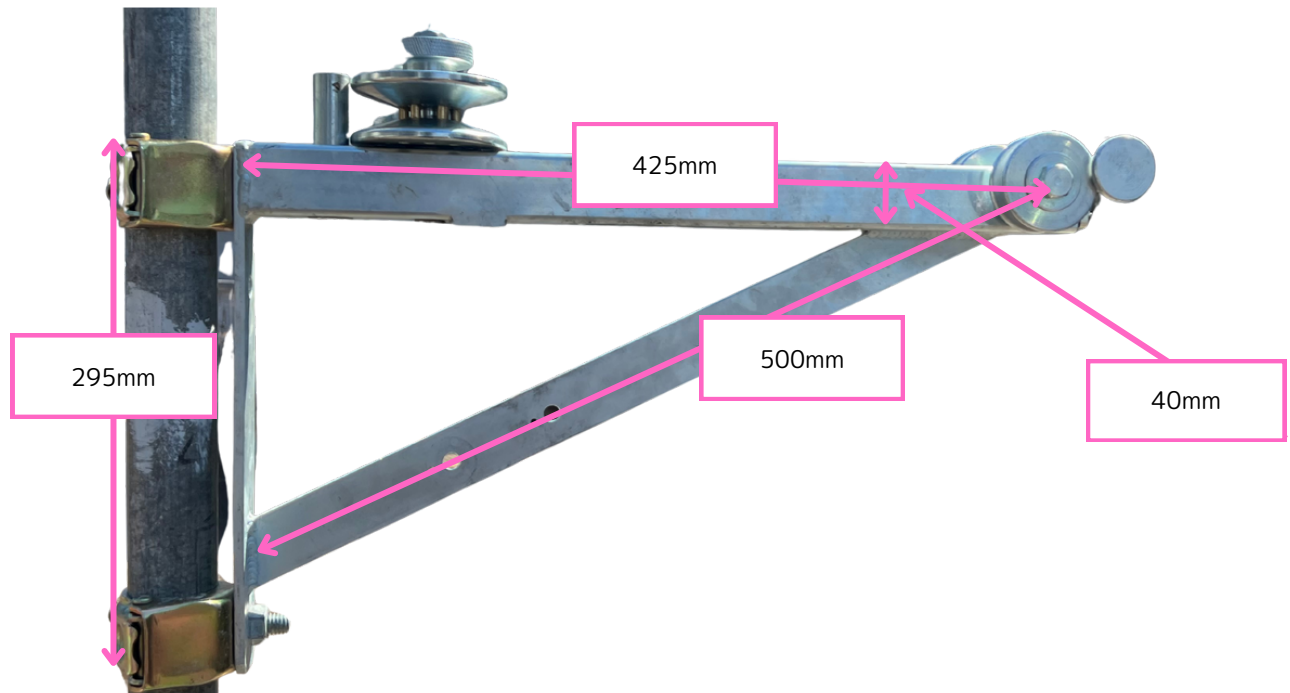
入数

1個

400



Friction Bracket



重量 7Kg

材料 鋼材

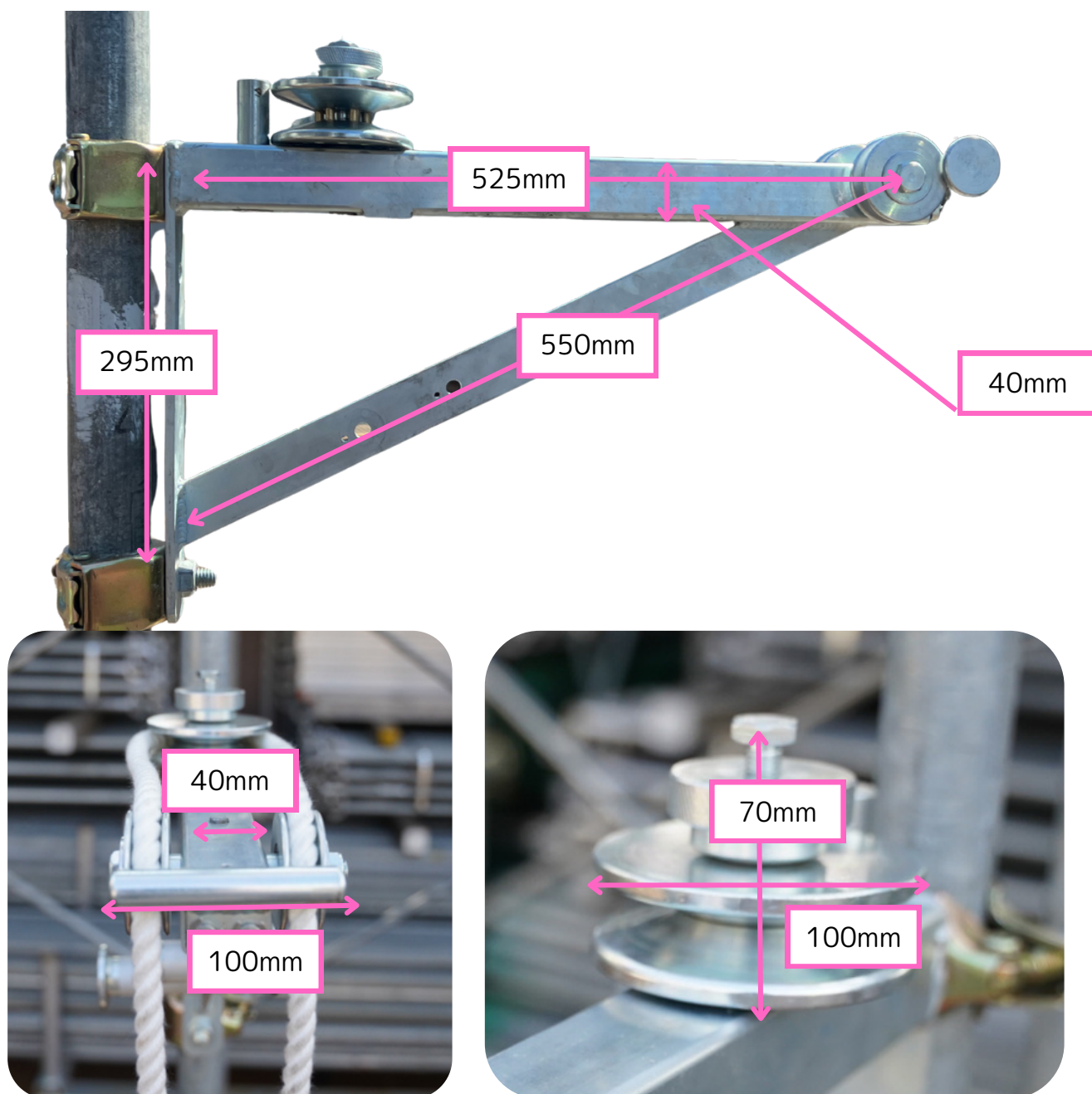
単価

入数 1個

500



Friction Bracket



重量 7.2Kg

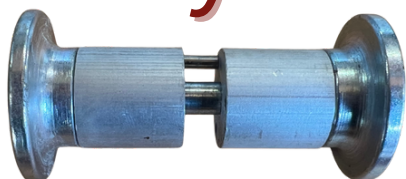
材料 鋼材

単価

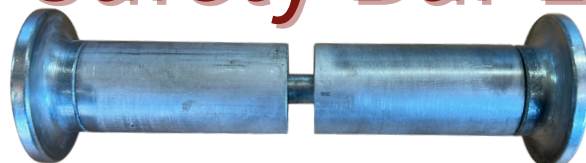
入数 1個

Friction Bracket

Safety Bar S



Safety Bar L



取付け

オプションで補助バーの取り付けが可能

サイズ展開

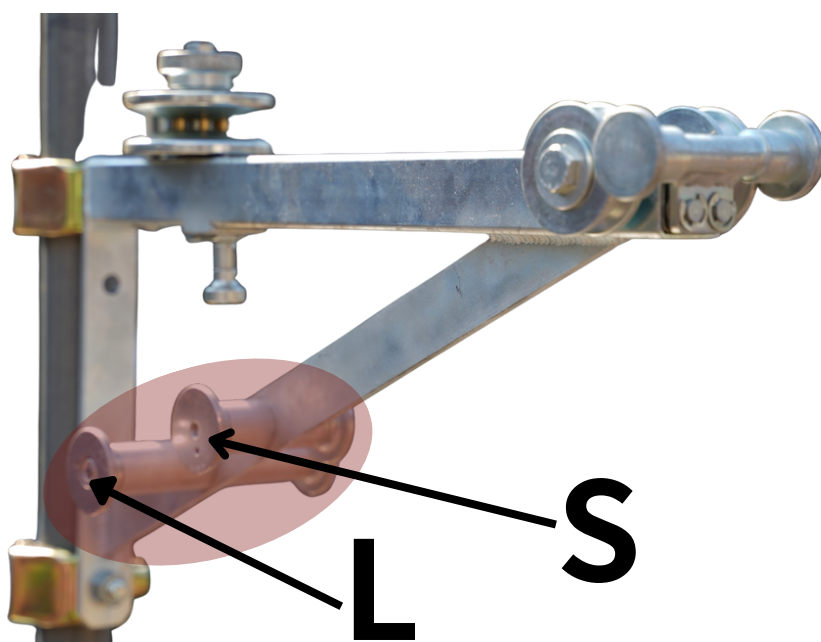
Sサイズ / Lサイズ の2種類

主な効果

- 荷下ろし時の荷重を軽減
- 足場から近い位置でロープ操作が可能

安全性向上のポイント

- 体の乗り出しを防止
- 作業時の安全性が向上



Friction Bracket

使用上注意事項

- 使用前に必ず点検を行うこと摩耗、変形、破損などの異常がないか確認してください。ボルトなどの緩みがないか確認してください。
- 適正な取り付け位置で使用するこゝと構造物に確実に固定されていることを確認してください。
- 耐荷重を守ること製品ごとの許容荷重を超える使用は絶対にしないでください。
- ロープとの適合性を確認すること適正な径・材質のロープを使用してください。
- 可変プーリーを調整する時は、荷重のかかっていない状態で調整してください。
- 可動部分には定期的に注油してください。
- 設置後は必ず荷重テストを行うこと本番作業前に簡易な負荷テストで異常の有無を確認してください。
- 保管は直射日光・高湿を避けることに、適切な環境で保管してください。
- 最大荷重100kg、それ以上の荷重使用禁止。